

様式1

令和3年度 学校評価表

志高く 未来を拓く 高西中教育

学校教育目標	志高く 未来を拓く 高西中教育	
a ミッション	中学校区で取組む「志プロジェクト」の推進	a ビジョン

尾道市立高西中学校

評価計画				自己評価				学校関係者評価			改善計画			
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
1 小中連携「志プロジェクト」で心一つに未来をつくる	特別活動の研究推進 ↓ 集団づくりの カリマネの推進 ↓ お互いの個性を認め合い、 互いを高め合える集団づく ↓ 学級力の向上	①学級力向上プロジェクトを軸とした学級力アンケートの活用 ②委員会活動をはじめとしたよりよい学校づくりに向けた生徒会活動 ③学級力を踏まえた話し合い活動の推進	①②③生徒・教員アンケート	80%	①生徒 97.7% 教師 100%	①生徒 98.1% 教師 90.5%	①生徒 123% 教師 113%	A	学級力アンケートをもとに学級の課題について話し合い、パワーアップアクションを策定することを通して、学級力の向上に学校全体で取り組むことができた。次年度は、アンケートをもとにした課題解決だけでなく、平素の生活の中でリアルな課題解決力や合意形成力、意思決定力をつけることができるよう今年度の取組を見直し、改善を図りたい。 生徒会活動の基盤である委員会活動について、各委員会担当の先生を中心に特色ある取組を実施することができた。課題を見いだしたり、月間目標の達成目指ししたりする中で、学級や学校をよりよくするために取り組むことができた。 学級力アンケートに基づいて行う、話し合い活動については、事前に話し合いを進捗する学級委員と話し合いの重点事項について確認し、多数決などではなく、意見を出し合う中で折り合いをつけることに着手することができた。また、話し合い活動の後には、縦割りで決定事項を行う「高西ミーティング」を実施した。そのことで、学校全体で取り組む風土づくりができた。	3	○学校全体で取り組む風土づくりはとて良いことだと思う。お互いの個性を認め合い、互いを高め合える集団づくりもとても良いことだと思う。何よりも達成度が高いのが良い。 ○「学級力向上プロジェクト」は、学校全体で取り組み、生徒一人一人が楽しく目標を持ち自信がつくと思う。 ○意見を出し合えるのはとても良いと思う。	○「学級経営計画」に学級力向上プロジェクトを十分に反映させる。 ○生徒会担当がイニシアティブをとりながら、各専門委員会がより一層自立して、各担当教員をベースとして活動していくことができるシステムづくりを進める。 ○自分たちの集団を自分たちでよくするための、生徒にとって必然性のある議題の設定を行う。		
	目指せ！ 生徒の笑顔・保護者の信頼・教師のやりがい ~生活と学習のPDCAを回せる生徒の育成~ ↓ 15歳の自立と自律	授業改善のカリマネの推進 ↓ 小中連携「志プロジェクト」の推進 + 「主体的で対話的で深い学び」の実現 ↓ 学力の向上	①一人1回研究授業、単元構想図の作成 ②学ぶ必然性のある課題設定 ③次の学びにつなげる振り返り ④学びを深める協働学習（理由付けのある意見交流） ⑤授業スタイルの徹底 ⑥学力分析と改善計画⇒実行 ⑦小学校との互見授業の実施（授業改善の共通テーマの徹底）	①達成率 ②③生徒・教員アンケート ④生徒・教員アンケート ⑤⑥⑦標準学力テスト	100% 85% 80% 全国比+3P	100% 100% 100% 100%	2生徒 72% 教師 67% 3生徒 76% 教師 86%	2生徒 83% 教師 90% 3生徒 83% 教師 90%	生徒 98% 教師 106%	A	校内研修を毎月実施し、研究通信や校内研修の中で振り返りを行うことで、研究を積み上げてきた。 見方・考え方を明記したり、指導案に予想される生徒の反応例を入れたり、指導の評価と記録の評価の位置づけを確認したりするなど、単元構想図や学習指導案の改良を行った。 生徒自身の生活に関わる学習課題を設定することを工夫した。また、単元内自由進度学習に挑戦し、成果や課題を共有することができた。評価基準を明確化したり、単元を通じた学びの積み重ねを視覚化したりする工夫ができた。来年度は、より生徒の実態に合わせた学びができるよう、教員が視点を提示するだけでなく、自ら学習をデザインできるように授業づくりを目指したい。 ICTや思考ツールを用いて自分の考えを整理する工夫や、発表の型を提示し、訓練していくための授業提案ができた。来年度は、生徒の表現力をつけるために、教師が考えのもとになる視点や資料を提示し、資料をもとに根拠をもって考えを説明できる力を身に付けさせたい。 授業スタイルの確立のため、構造的な板書に関する校内研修を実施できた。全国学力・学習状況調査では、文章の読み取りや、長文の発問を理解すること、理由を文章で説明することに課題が見られた。来年度に向けて、中学校区で教科・総合・生徒指導それぞれの代表者により、協議し、取り組みを計画していく。	3	○コロナ禍でいろいろ大変な中、ご苦労があるかと思うが、内容はどれも素晴らしい取組だと思う。 ○授業のスタイルがICTを用いて行う等、変化が求められていると思う。文章力の向上にも力を入れて欲しい。 ○授業、集会、行事等、オンライン実施が当たり前ようになってきていると思うが、生徒一人一人が頑張ることの共有がされていると思う。学力向上に取り組んでほしい。	○誰が見てもイメージしやすい単元構想図、指導案づくりをさらに追求する。 ○生徒の目線にたち、既習事項とのズレを意識し、「なぜ」と思わせる導入を目指す。 ○個別最適な学びの視点を取り入れ、生徒が学びをデザインできる部分を増やす。 ○課題設定⇒予想⇒検証⇒振り返りという探究のサイクルを意識した授業を各授業でも取り入れる。 ○学力分析を反映した試験問題を作成し、そこで明らかになった弱点について、授業や家庭学習を通して克服させる。 ○合同の研修等において、「表現力の育成」「見方・考え方を働かせること」を小中が共通テーマとして取り組む。
	働き方改革のカリマネの推進 ↓ 職能の向上 + 教育の質を高める働き方改革の工夫 ↓ チーム力の向上	①本校「人材育成構想」を踏まえ、一人一人が自身の目指す教職員像を「業績評価（自己申告）書」に明示し、年間を通じた実践を促す。 ②学校教育目標の達成に向けて、主任・主事がリーダーシップを発揮し、担当する校務を自律的かつ効率的に行う組織づくりを進める。	①業績評価書「取組内容についての自己評価 評定『3』以上」 ②働き方アンケート「学校教育目標の達成に向けた取組に、すべての教職員が参画している」	90% 90%	90% 100%	68% 66%	73% 109%	B	定期面談や日常の対話を通して、上半期の自身の実践や業務の遂行状況の成果と課題を振り返らせ、改善を促した。業績評価書において「目標をほぼ達成できた」と回答した割合は2/3となっており、より細やかな指導、支援が求められる。 学校経営会議等を通して、各部の計画的な業務遂行並びに主任・主事による進捗管理を促した。各分掌、学年において、学校教育目標を踏まえた重点目標の実現に向け、主任、主事のリーダーシップの下、自律的にPPDCAを回せる組織になってきている。さらに、今年度のデータの整理、蓄積により、次年度に向け、業務の効率化を図った。	3	○学校評価計画づくりやアンケート集計、スライド作成、分析作業等の膨大な作業が一部の教員の負担にならないようにする必要がある。 ○保護者アンケート結果からもわかるように「高西中学校に通わせて良かったと思う（肯定的回答の割合96%）」が一番の先生方の努力の結果であろう。	○校務分掌表と分担の精選と整備を進める。特に主任、主事に業務が偏らないように、各分掌におけるプロジェクト等に、他の教職員が計画段階から積極的に参画するシステムを構築する。		

「学校は楽しい」「高西中学校に通わせてよかった」という生徒・保護者の割合：生徒90%、保護者90%

【自己評価 評価】
 A：100≦（目標達成）
 C：60≦（もう少し）<80
 B：80≦（ほぼ達成）<100
 D：（できていない）<60
 【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。